



## ○ 太宰府 II

引き続き太宰府の話題です。前回記述しなかった九州国立博物館のことです。「若沖、琳派、京の美術—きらめきの細見コレクション」という特別展が開催中でしたので、その鑑賞に出かけたわけです。若沖の実物を見ることができる機会はあまりありませんので私はおおいに期待していました。結論を言うと（私見ですが）、期待したような若沖の作品はあまり多くなく、琳派全体を紹介するような内容だったので少し残念でした。中には私にも描くことができるかな？というようなものもありました。ただ数少ないとはいいながら若沖のオリジナルには感動しました。今回お伝えしたいことは「写真や映像ではなく、実物（オリジナル）を直接鑑賞することが大切」ということです。著作権等の関係からこの紙面で作品を紹介することはできませんので、皆さんの想像で補ってください。

もう一つ余談です。会場の出口直前の場所に“若沖作品写真撮影 OK”のコーナーがありました。よく見ると精巧な複製です。せっかく実物を見て感動していた気持ちが少ししぼんでしまいました。

## ○ 避難訓練

YC 校では 4 月 23 日に、KC 校では 5 月 12 日に行いました。私はどちらでも講評をしました。内容として「毎年同じようなプログラムで訓練を受けていると皆さんは思っているでしょうけれども、定期的に行うことが大切なのです。私は直接現場に出会ったことがあります、その時役に立ったのが定期的に行っていた訓練の内容なのです。」というような話をしました。長くなるので講評は短くしました。

しかし調理製菓にかかわり「火を扱うプロフェッショナル」となっていく学生たちに伝えたいことはたくさんあります。ここで少し私の経験談を紹介したいと思います。二・三年前にも記述しましたが、今の学生たちに伝えるのは初めてなので何かの役に立ててもらえればと思い、紹介します。

一つ目、NHK のニュースでも報道されてしまったので公の情報です。勤めていた中学校で秋の運動会の練習をしていました。私は放送担当でしたので本部にある機器の前でグラウンドの練習を眺めていました。すると流していた BGM が突然途切れしました。スイッチの関係かと思った私は生徒に体育館の分電盤を見てくるよう指示をしました。少ししてその生徒があわてて戻ってきて言いました。「先生、天井が燃えています！」中に入って見上げると体育館の天井、一番高いところに 50cm くらいの火があるではありませんか。私は大慌てで 100m 離れた職員室に連絡するため走りました。走る途中「火事だ！」は叫びました。事務室の電話ですぐに消防に連絡をしました（ケイタイは持っていませんでした）。これらの手順はこれまでの訓練を思い出していました。それから消防車が来るまで消火活動しようとして生徒にホースを準備させましたが、園芸用です。体育館の屋根までとても届きません。私の脳裏には体育館が全焼になった映像が浮かびました。

結論を言いますと、屋根はほとんどが防災素材だったのでそのうち自然に消えました。また、原因は老朽化による漏電だったとのこと。少しホッとしました。 つづく … (おそらく)

## ○ 自画自賛

KC 校のレクリエーションはボウリングで、その優勝者は前回似顔絵で紹介しました。YC 校でもレクリエーションを行いました、今年の種目はソフトドッジボールです。優勝者の似顔絵は毎年恒例にしているのですが、人数が多く、このたびようやく完成したので紹介します。

